

賛育会ニュース

(吉野作造 筆)

クリスマスメッセージ

「闇のどん底に
降り立たれたキリスト」



賛育会病院
チャプレン
大柴 譲治

初めに言^{ことば}があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。この言は、初めに神と共にあつた。万物は言によつて成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかった。言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

(ヨハネ福音書1:1-5)

クリスマスおめでとうございます！「クリスマス」とは「キリストのミサ(礼拝)」、つまり「キリストの降誕を記念する日」です。聖書には「降誕日」がいつであったかという日付は記録されていませんが、4世紀頃までに12月25日

(ある教派は1月6日)にクリスマスが祝われるようになってゆきました。日本では一般に「クリスマス」が一番よく知られていますが、実はキリスト教の暦の中で最大の祝祭日はクリスマスではなくて「イースター(復活日)」なのです。「イースター」は「十字架」に架けられたキリストが三日目に死人の中から復活されたということを記念する日です。復活のキリストと出会った人々が大きな喜びをもってそのことを周囲に伝え始めたところからキリスト教は拡がっていきました。そしてやがてキリストがこの地上に降誕されたクリスマスの出来事が祝われるようになっていったのです。クリスマスにはプレゼントを与え合う習慣がありますが、「最初のクリスマスプレゼント」はイエス・キリストでした。

英語でもドイツ語でも「理解する」という語は「下に立つ」と書きますが(under-stand/ver-stehen)、キリストはこの世界の闇の一番どん底に降り立つことによって、誰よりも深く私たちの窮状を「理解」してくださったのです。そして私たちを「下から」支えてくださっています。そのことをよく示す一つの短い物語があります。『足跡』と題されている物語です。ご存じの方もおられるかもしれませんが、それは次のような話です。

ある夜一人の男が夢を見た。彼は海辺を主イエスと共に歩んでいた。彼の、今までの生涯が空からの光にうつし出された。彼は浜辺に二組の足跡を見つけた。一つは自分のものであり、

もう一つは主のものであった。彼の生涯がうつし出された時、ときどき足跡が一組になつていくことに気づいた。しかも、その時は彼が深く嘆き悲しんでいる時であり、最も助けを必要とする時であつたことに彼は気づいた。彼は主にたずねた。「主よ、あなたは、いつも私と共にいてくださると約束してくださいました。しかし、私は私の生涯の中で一番辛く悲しい時に足跡が一組であることに気づきました。私にはどうしても理解できません。なぜあなたは、私があなたを一番必要とする時に、私を見捨てて私から離れられたのですか」と。すると主はこう答えられました。「愛する子よ。私は決してあなたを離れることはしなかった。あなたが見つけた、あなたの辛い時の一組の足跡。それは、私があなたを背負って歩いた足跡なのだから」。

クリスマスは北半球では一番夜の長い冬至の時期に祝われます。クリスマスの出来事は、闇のどん底にイエス・キリストという「救いの光」が届いたことを示しています。どのような時にも、主は私たちと共に歩んでくださるのです。光は暗闇の中に輝いています。お一人おひとりの上に主の祝福がありますように祈りいたします。メリークリスマス！



▲12月10日賛育会病院クリスマス礼拝

2013年度上半期事業報告(抜粋)

2013年度上半期も賛育会憲章の精神を継承し、その実践に努める職員や関係者の努力、また多くの方々のお支えによりまして経営方針・事業計画に沿って運営できたことをまず感謝申し上げます。以下、概況をご報告申し上げます。

1. 財務状況及び賛育会病院経営状況

法人全体の上半期決算では、収入は予算比2億4千8百万円の未達です。経常増減差額は予算比1億4千7百万円減の△8千2百万円であり、極めて厳しい状況が続いています。その主な原因は、賛育会病院の不振にあります。賛育会病院の収入は予算比2億2千4百万円の未達、経常増減差額は1億7千6百万円減の△1億5千7百万円となっています。賛育会病院は診療体制が不十分のままスタートしており、目標の入院者数を達成できていません。今後診療体制の強化、経費削減、及び管理料・処理料・加算を確実に確保していく取り組みを行います。現段階のマイナスを補うことができず、年度

末の経常増減差額は赤字になる恐れがあります。詳細は会計報告で説明いたします。

2. 高齢者施設運営状況

特養およびショートステイは高い利用率を維持していますが、通所事業はいくつかの施設で改善傾向或いは引き続き高い水準にあるものの、全般的に低迷しています。特養全体では、経常増減差額は予算比4千1百万増の3千2百万円ですが、収入は予算比2千5百万円の未達です。東海清風園は今年も順調な運営状況にあり、昨年大幅な赤字となった相良清風園は特養、短期、通所とも目標を達成し、急激に回復しています。また、東京清風園は、利用率はまだ目標に達していないものの、収支状況は予算に比べて改善傾向にあります。

3. 中央事業所における事故とその取り組み

第2四半期にマイホーム新川において、ヒューマンエラーによる事故が連続して発生しました。またマイホームはるみにおいても、誤嚥、誤薬事故が発生しました。これを受けて、

中央区と協力しながら事故の再発防止策、その背景にある施設の管理運営体制の見直し、改善に努めております。

4. 清林ハイツ事業転換の取り組み

清林ハイツをサービス付き高齢者向け住宅に転換する取り組みは、基本設計が終了しました。年度内着工をめざして、関係行政機関と相談・折衝を進めております。また、現入居者の退所支援についても順調に推移しています。第二清風園敷地内にある町田市高齢者アパートは、9月議会で賛育会への無償譲渡が決定し、現清林ハイツの入居者の退所先として利用できることになりました。

5. 組織の活性化

組織全体として、多くの委員会、プロジェクトチーム、ワーキングチームが動いています。チームより進捗状況に差があるものの、全体として活発に活動し、法人としてのまとまり、標準化、協働が進みつつあります。

6. 人件費適正化への取り組み

大きな課題である人件費率適正化への取り組みは、人材政策を策定できましたが、人の異動や補充が必要になった際、政策に沿ってなかなか具体的な対応が進まない状況がありま

す(特に非常勤の採用)。人材育成・キャリア開発、適材適所による事業の活性化、柔軟な雇用形態の導入などを含めて今後の最大の懸案事項です。

7. 職員の経営参画意識と事業所としてのまとまり

各施設の経営会議、スタッフ会議、運営会議が活性化し、多くの職員に経営参画意識が生まれています。また、四半期管理がより有効に活用されて、施設内での目標管理、達成意識が多くの職員に生まれています。また、事業所のまとまり、連携、協働が拡がり、地域包括ケアに向けて様々な取り組みがなされています。

8. 施設のメンテナンス状況

施設設備・備品について、老朽化、あるいはメンテナンスの不備がみられる施設があります。利用者の安全・安心、快適な環境提供に向けて計画的な修繕計画を策定中です。

9. ミッション100の取り組み

ミッション100の講演会がスタートし、使命や共有すべき価値についての学びが深まっています。また、TV会議システムを使って、多くの職員の参加を得ています。

10. 評議員改選

本年度は評議員の改選期で

11月16日(土)に東京清風園の地域交流スペースにて、第6回理事会・第2回評議員会が開催されま



▲「デイサービス稼働向上プロジェクト」の取り組み報告

理事会・評議員会を開催

あり、評議員候補者選考委員会から提出された候補者名簿に基づき5月25日開催の第2回理事会において評議員が選任されました。近藤政雄氏が定款細則第35条による定年のため退任となり、後任に宮本義彦氏が選任されました。他の18名の方は再任されました。任期は2013年7月1日から201

5年6月30日までです。

法人事業計画に関する諸報告、施設別の上半期報告につきましては、「2013年度上半期事業報告書」を作成しており、すで、閲覧をご希望の方はお申し出ください。

(お問合せ先)
社会福祉法人賛育会 法人事務局

した。承認された主な議案は以下の通りです。

1. 2013年度上半期事業報告の件
2. 2013年度上半期会計報告の件
3. 定款変更の件
4. 清林ハイツ解体工事入札結果報告
5. 株式会社コンティに決定
静岡県実地指導報告
指摘事項なし

会議の終了後、学習会が行われ「デイサービス稼働向上プロジェクト」の取り組み報告と「清林ハイツ事業転換計画」について医療介護連携型サービス付き高齢者向け住宅」の取り組み状況が各担当職員より報告され、質疑や意見交換が行われました。



第2回講演

「キリスト教社会福祉実践」

～隣人とはだれですか～
ルーテル学院大学 学長
日本キリスト教社会福祉学会 会長
市川 一宏氏

理念の再確認プロジェクト ミッション100 講演会

事業報告に記載されていますが、創立100周年に向けた事業の一つとして開始した、全事業所参加の講演会です。これまで講演くださった先生方をご紹介します。



第1回講演

「隣人愛について」

～スピリチュアルケアの現場から～
日本福音ルーテルむさしの教会 牧師
賛育会病院 チャブレン
大柴 譲治氏



第5回講演

「人は命だけでは生きられない」

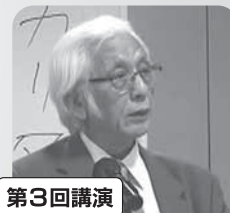
～魂に寄り添う～
NPO法人ホッとスペース中原 代表
中原キリスト教会 牧師
社会福祉法人愛隣会 理事
佐々木 炎氏



第4回講演

「社会福祉とヒューマンサービス」

～今後の社会福祉法人の在り方～
神奈川県立保健福祉大学 教授
社会福祉法人賛育会 顧問
河 幹夫氏



第3回講演

「賛育会の歴史」

～100年を前にいま振り返る～
社会福祉法人賛育会 顧問
YMCA史学会 理事長
齊藤 實氏

次回予告

【日時】2014年1月29日(水)18:00～19:30 【講師】布施英雄氏(社会福祉法人愛隣会・財団法人共愛館理事長)
【メイン会場】東京清風園 【テレビ会議】賛育会病院、マイホーム新川、第二清風園、豊野清風園、東海清風園

自転車の安全運転 講習会を開催

けながらの運転等を体験。日頃乗り慣れている自転車の操作の難しさと周辺状況に合わせた安全運転を改めて確認しました。

「東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が7月1日に施行されたことを受け、賛育会訪問看護ステーションと賛育会ヘルパーステーション(共に墨田区)は合同で本所警察の自転車の安全運転指導を受講しました。

会場となった錦糸公園にはトラックが持ち込まれ、運転席からの死角の大きさを体験。また実習では警察官の指導のもと、重たい荷物をかごに乘せたり、傘を差したまま運転したり、携帯電話を掛



東京清風園1階ロビーにタペストリー

東京清風園の1階ロビーにタペストリーが設置されました。

東京清風園の元利用者で、賛育会病院の職員でもあった中村歌子様

(故人)の寄付の一部及び理事有志による寄付でいただいたものです。

作品は日本人クリスチャンの型染版画家として世界的に有名な渡辺禎男氏の作品「最後の晩餐」をモチーフに織り上げられたもので、正面玄関突き当り部に額縁に入った立体絵のように飾られています。



東京清風園にお越しの際はぜひお近くをご覧ください。

「賛育会チャリティーコンサート 2013」報告

10月16日(水)に第6回「賛育会チャリティーコンサート2013」がすみだトリフォニーホール(大ホール)にて開催され千名を超える来場がありました。

コンサート終了後、会場での募金にも多くの皆様のご寄付がありました。あわせて感謝申し上げます。「東日本大震災の復興支援」を目的としたコンサートは3回目となりましたが、今年も全ての益金は、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)を通じて、今なお震災によって苦しまれておられる方々のために用いて頂きます。



「多死」時代への軟着陸 今年の敬老の日と思う



豊野清風園
施設長
柴田 光昭

その日の朝、激しい濁流が京都の町を北から南へ切り裂いていた。折からの台風の影響で嵐山渡月橋の兩岸に桂川の濁流が流れ込み、一帯は冠水した。目を疑うような鴨川の増水の勢いはやがて下流で桂川と合流する辺りで氾濫し、広範囲に浸水被害をもたらした。今年の敬老の日、テレビが映し出す、人力では御しようもない濁流の光景を私は見ていた。

昨年の介護報酬・医療報酬同時改定以来、『地域包括ケア』という言葉が我々の業界では飛び交っており、奔流となりつつある。賛育会も中期6カ年計画『プラン100』において、「2025年に向けた地域包括システムの重要な拠点」となることを目指している。

今年に入って厚生労働省の地域包括ケア研究会が報告書をまとめた。報告書では2025年に向けた地域包括ケアシステム構築の『五つの要素』として、『住まい』『生

活支援』『介護』『医療』『予防』分野を特定している。この報告書の特徴は、要素のうち『住まい』と『生活支援』に比重を置いていることだ。報告書を解読するのがテーマではないので詳述しないが、要するに地域包括ケアの究極の目的は、高齢者がいのちの尊厳を保持しつつ、最期の時に至るまで道筋のついた生活ができるよう、住まい、生活、在宅医療・介護の諸サービスを確認して、安心のある地域作りをすること、と言っている。私は解釈している。

結構なことだし反対することではない。最近ある福祉系新聞に、「地域包括ケアシステムに賛成か?と問われても、民主主義に賛成か?と問われているようなもので答えにくい」という旨のコラムがあった。私も同じ思いなのでニマリしてしまった。問題は本当にうまく機能するシステムを作り上げることが出来るかどうかだ。

ところで2025年といえば、団塊の世代がすべて75歳以上になっている。ということは、もう一歩先に進めば「多死」の時代に入るといえるのが冷厳な事実だ。埼玉、千葉、神奈川、大阪などの都市部では、75歳以上人口は現在の2倍前

後になっていると予測されている。この奔流は制御できるものではない。

先の報告書に注目すべき一文が挿入されていた。本人と家族の選択と心構えとして、常に「家族に見守られながら自宅で亡くなる」わけではないことを、それぞれの住民が理解したうえで在宅生活を選択する必要がある、というくだりだ。つまりいわゆる「孤独死」も覚悟しておけということだ。私もかねてから孤独死そのものが悪いわけではなく、長時間・長期間それが発見されずに放置される社会の現実が悲惨なのだと思ってきたが、かつて官界がこのようなことを公式に表現したことがあったろうか。

報告書は新たな地域力の創出を唱えているが、不吉な様で恐縮だが私の脳裏には、自宅・アパートで生きる高齢者が、充足されない地域ケアの下で快適で尊厳ある生活とはいえない状態である暮らし、孤独死することがあっても人に知られず点在放置されている地獄図のような様相が浮かぶ。

この「多死」時代を如何に迎えるか。待ったなしの時を迎える。地域包括ケアシステムの構築とはつまると

ころ「多死」時代に軟着陸するために有効な手立てを用意することだと言える。「多死」の奔流を濁流にしてはならない。一歳未満児の死亡率19%の当時、「汝の隣人を愛せよ」という聖書の言葉に衝き動かされ、古工場を借り東京本所区に果敢に乗り込んで乳児・妊産婦を守る活動に取り組んだ賛育会草創期の方々、その活動と理念を困難の中でも継承し事業を発展させてきた先輩方を想う。賛育会は優れた伝統の上に多種の医療・福祉サービスと優れたスタッフを持っている。いよいよ賛育会の出番は、と私は思っている。



秋の行事報告

今年の秋も各施設ではお祝いやご家族・地域の方々と賑やかに、そして温かい交流が行われました。

◆ 賛育会病院

「太三フェスティバル」
(下町の保健室)



◆ 東京清風園

「敬老を祝う会」
フラダンスとバンド演奏



◆ はなみずきホーム

「オープンハウス」
チャアリーディング



◆ たちばなホーム

「敬老祝会」で感謝の色紙
をプレゼント



◆ マイホームはるみ

「中央区福祉まつり」に
作品を出展



◆ マイホーム新川

「敬老祝会」
施設長より賀寿記念の
お花をプレゼント



◆ 清風園

「秋祭り」でフラダンス
円内は初登場したディサードビス
のゆるキャラ「ハッピー」





◆豊野清風園

「敬老祝会」で地域の子ども
たちによる鬼島太鼓きじまの披露



◆第二清風園

「フリーマーケット」
吹奏楽コンサート



◆相良清風園

「運動会」
(地域の保育園児と共に)



◆東海清風園

「敬老会」で職員から
歌のプレゼント



さんいく保育園清澄白河では、
12月14日に一足早いクリスマス会
が行われました。



さんいく保育園
清澄白河

サンタクロースがやってきた!

7月23日、9月9日の理事会にお
いて、左記の人事が決定しました。

任用

10月1日付

○小林利紀子 東京清風園 看護
課長

○永井都也子 マイホーム新川
施設長

○繁田正人 法人事務局総務部長

○羽生隆司 法人事務局経営企画
部長

総務部長兼務とする。

主要人事



子ども達は、この日のために一
生懸命練習した歌や劇を元気に
発表しました。会場は熱気にあふ
れ、楽しいひと時を過ごしました。
最後にサンタクロースが登場し
て、子ども達一人ひとりにプレ
ゼントを手渡され子どもたちも保
護者の皆さんも大喜び!
サンタクロースは…秘密です。



元理事長 加美山 節さんを送る

賛育会後援会会長 徳久 俊彦

賛育会第8代理事長を務められた、加美山節さんが、去る9月11日、天に召された。享年93歳。加美山さんは1919年(大正8年)父上が勤務されていた北京で生まれ、間もなく日本に帰国、旧制浦和高校を経て東大経済学部を卒業、当時の横浜正金銀行(後の東京銀行、現三菱東京UFJ銀行)に就職されたが直ちに召集され、海軍に入隊、1945年8月長崎で被爆は免れたものの原爆の後始末に当たったため放射能を浴び、原爆手帳を持っておられた。銀行に復帰後は外国畑が長くニューヨーク東京銀行信託副頭取、ブラジル東京銀行頭取を歴任、1974年から14年間三洋証券の専務を務められ

た。賛育会には三洋証券在任中の1983年から評議員として関わられ、翌年には理事に、1992年から6年間理事長を務められた。

加美山理事長の時代は、特別養護老人ホームの「措置費」時代が終りに差し掛かり、介護保険の「夜明け前」の時期で賛育会の事業形態が多様化した時期であった。1992年は懸案の賛育会病院改築の第一期工事が竣工、「はなみずきホーム」がオープンして、墨田区から最初の公設特養の運営委託を受けた。翌1993年、賛育会は創立75周年を迎えて記念行事を行い「賛育会の75年」(齊藤實著)を発刊、長い歴史を振り返ると共に、次の時代への備えを怠りなく始めた。この年常務理事が佐藤惟吉氏から植清輔氏に交代。1995年には、降って沸いたような話で中央区から新川の運営を受託することになった。1996年には賛育病に訪問看護ステーションを開設、地域の在宅ケアに進出、墨田区からの運営委託第2号「たちばなホーム」が始まった。このような時、加美山さんは突発事態に動することなく冷静適切に対処し、変動期を乗り切る上で、リーダーシップを発揮されたのであった。

加美山さんというあの温顔とユーモア溢れる語り口が思い出される。放射能にはアルコール消毒が一番と、呑みながらの座談は誰しも聴き入る「名人芸」であった。反面戦後の国際金融界にあって大活躍をされたビジネスマンであり、愛知用水公団に出向中は世界銀行からの借り入れを実現、外資導入の先鞭をつける働きをされた。大学時代は東大YMC Aの会員として活躍、卒業後29歳で東京YMC A理事に推され、後には東京YMC Aばかりでなく日本YMC A同盟委員長、理事長も長年務められ、アジアYMC A同盟、世界YMC A同盟に於いても活躍された。更にニューヨーク、サンパウロ、東京と長年ロータリアンとしても活躍、1990年東京・沖縄地区ガバナールを務められた。学校関係でも国際キリスト教大学、明治学院、日本聾唖学校、女子学院、東京家庭学校等、数多くの学校の役員を務められた。知的障害者の「スペシャルオリンピックス」にもその創設時から関わり、その理事長としても貢献される「奉仕の人」であった。

私は加美山さんの足下にも及ばないが、加美山さんの後の賛育会理事長を仰せつかり、更には学校法人東京YMC A学院の理事長も引き継ぐというご縁を頂いた。

加美山さん、長年お疲れ様でした。神様の御許で、どうか安らかにお休み下さい。

計報

大場敏治氏(85歳)

2013年12月2日召天
2002年7月より2004年6月まで賛育会監事
2004年より賛育会 顧問

これまでの献身的なお支えを改めて感謝申し上げますと共に、安らかなお眠りをお祈りいたします。

清風園開設50周年 メッセージ募集

清風園(町田市)は2014年7月に開設50周年を迎えます。賛育会として初めて高齢者事業の働きを担った清風園の歩みをまとめた「記念誌」を発行予定です。現在、清風園をお支えくださった元職員や関係者の方々のメッセージを募集しています。

詳しくは清風園 042(735)3000へご連絡ください。

東京都墨田区太平3-17-8
電話03(3622)7614
社会福祉法人 賛育会
編集発行者 西原良信
編集人 近藤倫弘
印刷 (有)エースプリント